

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	小林 えり佳 (こばやし えりか)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2022 年 11 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本ストレスマネジメント学会 第 20 回学術大会・研修会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	小林えり佳
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	インターネットゲーム障害における心理学的支援に関する研究動向
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【目的】</p> <p>本論考では、インターネットゲーム障害 (以下、IGD) における心理学的支援に関する文献のレビューを行い、IGD の主症状に影響を及ぼすとされている衝動性や不安、回避、家族の問題といった周辺症状に関する特徴と、それらと心理学的支援を構成する要素との対応関係に焦点を当てて検討することを目的とした。</p> <p>【方法】</p> <p>本論考では、IGD に対し心理学的支援が行われた学術論文を対象とした。その適格基準としては、(a) IGD が介入における主なターゲットであること、(b) 心理学的支援を行っていること、(c) 学術論文であることを設定した。論文検索には、文献データベースとして「PsycINFO」を用いて電子検索を行った (2022 年 7 月 1 日時点)。文献データベースにおける検索ワードとしては、「internet gaming disorder」AND “treatment” を用いた。データ抽出にあたって、PRISMA 声明に従った。</p> <p>【結果・考察】</p> <p>論文検索の結果、696 報の文献が抽出された。また、IGD の心理学的支援に関する介入研究のハンドサーチによって、適合基準を満たす文献を 4 報追加した。抽出された文献のうち、すべての適合基準を満たさなかった 675 報を除外した。したがって、レビューする論文として、25 報の文献を分析対象とした。その後、対象者の特徴、心理学的支援を構成する要素、プロセス変数、アウトカム変数、主な介入結果に関する知見を整理した。</p> <p>IGD の主症状に関して整理した結果から、セルフコントロールスキルや渴望に焦点を当てることによって、IGD の主症状の軽減に寄与した可能性があることが明らかにされた。また、周辺症状と IGD の主症状との関連が明らかにされた一方で、本論考が対象とした文献においては、必ずしも周辺症状を考慮した要素が心理学的支援に含まれていないことも明らかにされた。さらに、周辺症状が同じであっても、発達段階やゲームの種類の違いによって介入における有効な要素が異なる可能性があることが示唆された。以上のことから、IGD の主症状に有効である介入をベースとしながら、IGD 患者の特徴のアセスメントに応じた要素を適切に加えた心理学的支援を行うことが必要であると考えられる。</p>	

※無断転載禁止